

切花キクの花もち向上に対するベンジル・
カイネチンその他の薬剤の影響（予報）

田村輝夫・鈴木基夫
(園芸試験場久留米支場)

TAMURA, T. and SUZUKI, M.
Effect of Benzyl Kinetin and Other Chemicals for the Keeping
Qualities of Cut Chrysanthemum Flowers (Preliminary report)

切花の花もちをよくするため薬品やMH, NAAなどの植物ホルモンなどを処理した多くの報告があるが、これらはある種類については効果を示すが、他には効果がなく、完全な結果は得られていない。ベンジル・カイネチン(B. K.)がそ葉や花の鮮度保持に有効とされているので、B. K.とその他の薬剤がキクの花もち向上にどのような効果を示すかを調査した。

試験方法 切花キクは農家生産の開花期の揃ったものを用い、1区9本、1区制、各処理とも所定の濃度薬剤液に切花を挿し、換水は行わず、減量分を毎日同

じ薬液で補った。対照区は毎日換水を行なった。実験は当場の生理実験室内で行い切花持日数は商品価値があると考えられる期間とした。

試験結果

I. 昭和39年6月2日 品種筑紫B. K.ストレプトマイシン、有機水銀剤の250, 100, 50, 25ppmの濃度の水溶液で処理した、水銀剤、ストマイ、B. K.の順で何れも対照区より有効であつた。

II. 7月7日 秀黄冠を用いIと同じ薬剤と濃度で処理した。対照区に毎日換水のほか無換水を加えた。

